3

重要課題の解決に向けた取り組み：人（希望に満ちた未来世代を育む）

未来を担う子ども・青少年が可能性を広げ、自らの夢や希望を実現できる社会を目指し、金融教育・子育て・青少年育成に取り組んでいます。

1 未来世代の成長を支える持続的な方針

〉未来を担う子どもたちに向けて

金融教育 1/3

当社グループとして、グループ各社の強みや専門知識、経験を生かし、小学生から社会人までの各層向けの授業を実施し、多くの方に金融教育コンテンツをお届けしています。

当社では2011年度から出前・受入授業として「ライフデザイン」に関する授業を実施しています。2025年度からは「金融リテラシー（基礎編）」授業を新設し、「将来の夢を描く」こと、またその実現に向けた「適切なお金との付き合い方」についての授業を実施しています。

また、取引先企業の従業員向けには「確定拠出年金投資教育セミナー」や「オンライン投資無料セミナー」を提供しています。当セミナーを通じ、老後の資産形成をサポートすることで、従業員の金融リテラシーおよびファイナンシャル・ウェルビーイングの向上に貢献します。

今後も金融リテラシー向上の支援を通じて、持続可能な社会の形成に貢献していきます。

金融教育コンテンツ

小学生

キッズセミナー「株価を予想してみよう」
日本生命*
*教材はニッセイアセットマネジメント株式会社提供



Beyond SDGs人生ゲームを活用した出張授業の実施
ニッセイアセットマネジメント株式会社



金融・投資教育冊子「投資を学ぼう！」
ニッセイアセットマネジメント株式会社
※小学校高学年以上が対象

中高生

出前・受入授業「わたしのライフデザイン」
日本生命



出前・受入授業「金融リテラシー（基礎編）」
日本生命



大学生

金融教育プログラム「マスカレ」
ニッセイ・ウェルス生命保険株式会社



パーソナル・マネー・マネジメント入門 ～大学生のためのマネー、金融、経済の基礎知識～
大樹生命保険株式会社



社会人

従業員向けセミナー

> 未来を担う子どもたちに向けて

金融教育 2/3

当社グループは、希望に満ちた未来世代を育む取り組みの一つとして、金融経済教育を実施しています。

「出前授業」「受入授業」

全国の中学校・高校に向けて出前・受入授業を実施しています。

金融経済教育の一環としてライフデザインや保険の大切さを、全国の職員が講師となり直接伝えています。子どもたちが自分自身の将来について考え、未来を切り拓いていくきっかけとなることを願い取り組んでいます。また、2025年度からはライフデザインの他に、金融経済教育に関する授業として、「金融リテラシー（基礎編）」も開始しています。

参加者数

2025年度	15年間で
151校 **13,807名**	**1,339校** **131,828名**



先生の声

普段、学校でなりたい自分をイメージさせることは多いのですが、日本生命職員さんはそこに「まさか」の出来事が起こるという別の角度からの切り込み方で、子どもたちも少し気が引き締まったように感じました。

成人年齢が18歳になったのに、大切なことをしっかり伝えてくれる機関がない。今回のように、その道のプロの方が授業してくださるのは、大変貴重だと思います。

生徒の声

講師の方自身の話や具体的な例がいくつかあって自分の人生と重ね合わせて考えることができて、将来についてもっとしっかり考えようと思うことができた。

進路で悩んでいましたが、人生設計について色んなことを教えていただけたので自分の中で考えが変わるとてもいいきっかけになりました。

大樹生命保険株式会社

青山学院大学における寄附講座の開講

大樹生命保険は、2005年度より青山学院大学における寄附講座「パーソナル・マネー・マネジメント入門～大学生のためのマネー・金融・経済の基礎知識～」を従業員が講師となり実施しています。

受講者数

21年間で
約4,400名



ニッセイ・ウェルス生命保険株式会社

金融経済教育講座の提供

ニッセイ・ウェルス生命保険は、若い世代にお金に関する適切な判断力を持ってほしいという思いから、「金融教育プログラム『マスカレ』」を提供しています。



講座資料

〉未来を担う子どもたちに向けて

金融教育 3/3

金融教育の提供を通じて、未来を担う子どもたちの育成に取り組んでいます。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

出張授業の実施

ニッセイアセットマネジメントは、より多くの子どもたちの金融・SDGsリテラシーの向上に寄与したいという思いから、2023年度から全国の小中学校に対し出張授業を行っています。

受講者数

2025年度
約1,000名
延べ約3,600名



授業風景

大学での金融教育の実施

ニッセイアセットマネジメントの役員・職員が、2022年度から、早稲田大学大学院経営管理研究科において、金融をテーマにした講義を行っています。



授業風景

金融・投資教育冊子「投資を学ぼう！」の制作

ニッセイアセットマネジメントは、金融教育の推進の一環として、金融・投資教育冊子「投資を学ぼう！」を制作し、どなたでもアクセスできるコンテンツとしてホームページ上に公開しています。



子育て支援取組

「どこにいても、誰もが安心して子育てできる社会」の実現に向け、切れ目のない支援体制の構築や、地域・企業における子育て支援の充実を推進しています。

「NISSAYペンギンプロジェクト」の推進

子育ての壁や不安を当事者だけが抱えるのではなく、“みんなで子どもを育てる社会”を実現したいと考え、社内外の風土醸成と社会全体で支える仕組みづくりに取り組んでいます。
【共創取組パートナー数：累計71団体(2025年度末)（対前年＋19団体)】





子育てみらいコンシェルジュ

保育所探しに悩む企業の従業員と安定稼働に悩む企業主導型保育所を仲介するマッチングサービス「子育てみらいコンシェルジュ」を2020年1月より当社子会社のライフケアパートナーズにて展開しています。

全国約1,250園（2026年4月時点）の企業主導型保育所を職員が利用可能であり、保活の円滑化、早期復職のサポート等に役立っています。

ちょこいく

一時保育を利用したい子育て層と、空きをもつ保育園とをマッチングするサービスである「ちょこいく」を、当社の社内起業プロジェクトを経て2024年からNissay MIRAIQA株式会社にて展開しています。

個人のお客様向けのサービスに加えて、2024年10月からは「病児保育」や「復職に向けた保活」をサポートする法人様向けのプランの提供を開始し、企業の人的資本経営のニーズに応えながら、働く子育て層の両立支援に取り組んでいます。

スポーツ取組

所属選手や協賛競技団体と連携を図りつつ、「子どもたちが自分らしく夢や希望を持って、心身共に健全に成長していくこと」を目的に全国各地で取り組みを展開しています。

スポーツ教室

これまで、サポート選手によるスポーツ教室を実施してきました。2025年度からは従来の取り組みに加え、「～地球は、おっきなフィールドだ。～『SPORTS DAY』by TEAM JAPAN×日本生命*」を開始し、選手と共にスポーツ体験や地球環境を学ぶ機会を提供しています。

*公益財団法人日本オリンピック委員会・公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会と共に開催しています。

※日本生命はTEAM JAPANゴールドパートナー（生命保険）です。





DREAM HOOP PROJECT

競技の垣根を越えたさまざまなカテゴリーのバスケットボール選手が講師となり、「夢」をテーマにした授業を全国で実施し、子どもたちが将来について考えるきっかけを提供しています。



社会貢献活動 1/3

進学支援、環境教育、ミュージカル公演等の文化・芸術体験の提供を通じて、子どもたちの健全な育成および多様な価値観の醸成に取り組んでいます。

進学応援奨学金　supported by 日本生命

経済的に困難な状況にある高校３年生や受験浪人生に対し、進学準備費用として奨学金を給付しています。当社役員・職員による直筆のメッセージや応援グッズも贈呈し、進学の後押しとなることを願っています。

※協働先：認定NPO法人キッズドア



ニッセイ名作シリーズ

子どもたちの「豊かな情操」や「多様な価値観」を育むことを願い、全国各地で小学生を本格的なミュージカル等の舞台芸術へ招待しています。

※協働先：公益財団法人ニッセイ文化振興財団

豊かな地球環境を未来につなぐ活動

全国47都道府県で211カ所に広がる“ニッセイの森”の保全を通じて、地域の環境保全・防災・水源涵養（かんよう）に貢献しています。また、小学生向けの自然観察教室「森の探検隊」等にも取り組んでいます。その他にも、職員が参画し、全国の地方自治体等と環境保全活動を推進しています。

「こどもの未来応援国民運動」への賛同



こどもの貧困などの課題を解決するため、こども家庭庁等が推進している、「こどもの未来応援国民運動」に賛同しています。

当社オフィスに「こどもの未来応援基金　寄付型自動販売機」を設置し、飲料の売上の一部を寄付することで、こども支援を行う全国の団体の活動に役立てられています。

※推進事務局：こども家庭庁、文部科学省、独立行政法人福祉医療機構



2025年度
807,048円
を寄付

6年間に
3,988,439円
を寄付

職員の声

寄付型自動販売機が設置されていることで、こうした取り組みの認知拡大・啓発に繋がるものと感じています。自分の生活の中で気軽に参加できるこのような取り組みがもっと広がっていくことで、こどもへの支援の輪が拡大されていくものと思います。自分自身、積極的な利用を心がけていますし、周囲への声かけを行うことで、巻き込みを図っていきたいと思っています。

毎日購入する1本を寄付型自動販売機にすることで、少しでもお役に立てていると思うと、寄付型自動販売機で購入することを意識するようになります。一人ひとりが他の人を想う気持ちを育てていくには素晴らしい取り組みだと思っています。

社会貢献活動 2/3

子ども支援団体への伴走
～教育支援団体個別支援プログラム supported by 日本生命～

子どもの貧困・居場所・格差・教育などの課題解決に向け取り組む団体の伴走支援を実施しています。

※協働先：一般社団法人全国子どもの貧困・教育支援団体協議会

支援先団体の声

団体の課題が整理され可視化されたことで、やるべきことの優先度が明確になったことがよかったです。毎回、次までのアクションプランを一緒に考えてもらえたので月1回の打ち合わせがマイルストーンになりました。



2025年度の支援先団体：
NPO法人太陽の家（三重県）、
一般社団法人UMEプロジェクト（広島県）、
NPO法人しげまさ子ども食堂
ーげんき広場ー（大分県）

生きづらさを抱える人たちに向けた支援

困難を抱えた女性、厳しい家庭環境にある子ども、親を頼ることが難しい若者等、支援を必要とする多くの人たちを社会全体で支えていくための活動を包括的な協定締結に基づき、さまざまな形で支援しています。

※協働先：一般社団法人 I&Others

貧困や虐待、家庭内暴力、育児ノイローゼなど生きづらさを抱えた少女や若い女性たちに寄り添い、サポートする活動を支援しています。

※協働先：一般社団法人 若草プロジェクト

児童養護施設を卒園した子どもへの支援

児童養護施設を卒園し、大学等へ進学した子どもを、経済的・精神的にサポートする「オンライン里親」に取り組んでいます。

当社からの経済支援に加え、当社職員が「里親」となり、定期的なオンライン交流会を通じて支援する学生と交流を深め、卒業まで見守ります。

児童養護施設で過ごした子どもたちは、大学等へ進学しても、経済的な困難に加え、精神的な困難によって中退をしてしまうケースが多く、支援が必要な状況にあります。



里親メンバーとみらいこども財団の事務局

当社では、オンライン里親の取り組みにより、そのような子どもたちの進学・就業による将来の収入格差の解消や、次世代への貧困・虐待の連鎖を断ち切ること、児童養護施設に関連する社会課題の認知を広げることを目指しています。

また、里親として参加する当社職員自身にとっても、社会課題へ取り組むことで得られる気付きを業務へ生かすきっかけとなっています。

※協働先：一般財団法人みらいこども財団

参加している職員の声

ちょっとずつでもできることを行動に移すということが、すごく大事だと改めて実感できました。実際にやってみて新しい世界が広がりました。

自身がオンライン里親に取り組んでいることを友人に話したら、周りも、児童養護施設の課題をニュースで聞いたことがあることや、実は社会課題に関心があって何らか取り組んでいることを伝えてくれて、社会課題に関して話をするきっかけになりました。

社会貢献活動 3/3

「創造性の育成塾」への協賛

全国の中学2年生40名を対象に、ノーベル賞受賞者を含む一流の科学者等の講義や実験授業を行う「創造性の育成塾」に協賛しています。未来を担い世界に貢献できる理系人材の育成に向け、創造性と自ら考える力を育むプログラムです。

2023年には当社社長(当時)の清水博が「無限の可能性をつかみ取る」といったテーマで講義しました。

※協働先：NPO法人ネットジャーナリスト協会

参加者の声

先生の話を聞いて、理系でも国語の力は重要だと学びました。「どれだけ良い研究成果をだしたとしても他人に伝えられなければ意味がない」と仰っていたので、国語の力をもっとつけたいと思いました。

全国各地のさまざまな友人を作ることができ、刺激を受けました。また、チームで協力することで、個人以上の成果を出すことができると学びました。



当社清水社長（当時）による講演



日本生命プロボノプロジェクトの実施

さまざまな社会課題に取り組んでいるNPO団体などに、当社職員がプロボノとして参加するプログラムを実施しています。団体の活動や運営で直面している課題を一緒になって検討し、参加者が培ってきた経験やスキルをもとに、解決策を提示しています。参加者自身も社会課題について理解を深める機会となっています。

※協働先：公益社団法人日本フィランソロピー協会

支援先団体の声

私たちが取り組んでいる社会課題を一緒に考えてくれる仲間が増え、とてもうれしいです。企業がプロボノ活動を推進することは、市民の社会参画を促すとても大きな力になると思います。

参加した職員の声

一つのことに対してこれだけフラットな立場で議論を尽くしたのは初めてでした。チームの一人ひとりが何かを良くしたいという強い想いを持ち、たくさんの意見が出てくることに驚きました。部署を離れた仲間ができ、一つのモノを作り上げ、誰かに感謝してもらえる活動に参加できて、温かい気持ちになりました。



2025年度の支援先団体：

一般社団法人ハビリスジャパン（東京都港区）、公益財団法人日本補助犬協会（横浜市旭区）、NPO法人ふうせんの会（大阪市中央区）

6年間で
14団体を支援